

シンポジウムⅡ：大震災と防災・減災に向けた政府間関係の再構築
—自助・公助・共助のあり方と地域連携—

コーディネーター：宮入興一（元愛知大学）

パネリスト 高端正幸（埼玉大学）

パネリスト 佐々木伯郎（東北大学）

パネリスト 岩田孝仁（静岡大学防災総合センター）

パネリスト 三上元（湖西市長）

2011年3月11日の東日本大震災から5年が経過した。地震災害に対する課題が浮き彫りになる中で、南海トラフ巨大地震や富士山噴火の可能性など、大規模災害の危険性が指摘されている。朝日新聞の調べでは、国の津波避難対策特別強化地域に指定された139市町村のうち、43市町村が東日本大震災以降に公共施設の高台移転を実施・計画しているとされる（『朝日新聞』2015年9月28日付）。シンポジウムⅡでは、東日本大震災における復興の現状と課題について総括しつつ、今後の防災・減災に向けた国、都道府県、市町村の関係をどのように再構築すべきかについて論じていく。

高端正幸氏からは東日本大震災の復興過程において、地方財政面でどのような課題があるのかを総括していただき、佐々木伯郎氏からは東北の現状を踏まえた問題提起、静岡大学防災総合センターの岩田孝仁氏からは東日本大震災後の静岡県における地震防災・減災に向けた取り組みについて、湖西市長三上元氏からは市レベルでの地震防災に向けた取り組みについて報告していただき、自助、公助、共助のしくみをどうするか、自治体間連携といった問題にも触れながら議論を深めていく。